

0. はじめに

1. ニーチェの動機づけに関する箴言

「想像的原因の錯誤。(中略)心身のある種の状態が産み出した様々な観念が、銅状態の原因であるとして誤解されたのであります。(中略)いいかえれば、われわれはこれこれしかじかの心身の状態にあることの根拠を得ようと欲します。——悪い状態にあるとか、あるいは良い状態にあるとかの根拠を得ようと欲するのです。これこれしかじかの事実をただ単に確かめるだけでは、われわれは決して満足しません。われわれはその事実一種の動機づけを与えたときになってはじめて、この事実を承認するのです。(中略)このようにして一定の原因解釈を常用する癖が生じて参ります。これがじつは原因の探求を阻み、不可能にしてしまうのです。

一果してそうなのか

2. 参考 本の読み方(東浩紀)

若いひとへのアドバイスですよ? それならば、学問はまずものごとを「真剣に受け止める」ことから始まるのだ、と言いたいですね。「受け流す」ことからは始まらない。最近、BLOGとかがあるので、普段からいろんな意見を浴びて、若いうちから他人の意見を受け流す技が上達しているし、またそういうのが賢いと思われている。社会学は、そういうときとても便利なツールとして使われている。つまり、「俺はお前の意見とは違うよ」と言っても、「ああそれはそういうコミュニケーションなんだね」と、するっと受け流してしまう。でもそういうことを言っていると大成しないので、物事には真剣に取り組むべきです。

つまり本を読むときには、若いうちには、「ここには真理が書いてある」と思って読まなければだめだということです。(中略)

例えば、最初からAMAZONのブックレビューがあって、良いとか悪いとか言っている奴がいっぱいいて、BLOGでもいろんな書評がいっぱいあって、じゃあ俺の立ち位置ってどこかなって探りながら、新刊を読むという感じになってしまっている。なかなか、「これは正しい本なんだ」と信じては本を読めなくなっている。でもそれは非常に不幸なことなのです。

3. 動機づけ理論の紹介

感覚剥夺の実験

動機づけの階層仮説

認知的段階/情意的段階

コンピテンス/好奇心

熟慮・合理的 非熟慮・合理的 熟慮・非合理 非熟慮・非合理

フォードの式 価値(内発価値・獲得価値・利用価値・コスト)×期待×感情

全体的/文脈的/事態的動機づけ水準

乳児・児童・生徒・青年・大人・老人

外発的動機づけ/内発的動機づけ

認知的評価理論

外発→内発 正リンク

内発→外発 負リンク

達成動機づけ

原因帰属 成績目標/学習目標

連続性の実証

自律的動機づけ

プシュルモデル

一いかに「自律的動機づけ」が達成されるか、が動機づけ理論の焦点

「行為」「結果」においてしか示しえないのではないか？

柄谷行人のいう自由「他者を手段としてのみならず目的として扱え」

は、やはり「倫理」ととどまるであって、処方箋ではさらさらしない。

果たして処方箋となりうるのは？

4、おわりに

参考文献

速水敏彦 「自己形成の心理—自律的動機づけ」、金子書房 1997年

日本行動科学協会 「動機づけの基礎と実際」 川島書店 1997年

ニーチェ 訳者西尾幹二、生野幸吉

「ニーチェ全集4」(偶像の黄昏) 白水社 1987年

じんぶんや <http://www.kinokuniya.co.jp/04f/d03/tokyo/jinbunya16-2.htm#1>